

3.1 社会学部

3.1.1 理念・目的・教育目標

【評価項目 0-0-1】 理念・目的等

(必須要素) 大学・学部等の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成などの目的の適切性

(必須要素) 大学・学部等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性

【評価項目 0-0-2】 理念・目的等の検証

(選択要素) 大学・学部等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況

(選択要素) 大学・学部等の理念・目的・教育目標の、社会との関わりの中での見直しの状況

【評価項目 0-0-3】 健全性・モラル等

(選択要素) 大学としての健全性・誠実性、教職員及び学生のモラルなどを確保するための綱領等の策定状況

<2003年度に設定した目標>

社会学部は、「真理は汝らに自由を得さすべし」という聖句を基本精神としながら、社会学と社会福祉学を核にして現代社会を科学的に探求することを通じ、今日の社会に具体的な貢献を成し得る人材を育成することをめざしている。

社会学・社会福祉学とは、人と人の関係、家族・学校・企業やさらには地域・国家といった集団と人の関係、そしてそれらの集団と集団間の関係の中から生じるさまざまな事象に学際的にアプローチし、より理想的な社会のあり方を模索していく学問である。とりわけグローバル化や高度情報化が進んだ現代社会の本質を探究するためには、既存の研究領域にとらわれない柔軟でバランスのとれた思考力、自主的な行動力、そして鋭い観察力や分析・検証能力が必要である。

社会学科では、「現代社会学」「地域・生活・環境」「メディア文化」「企業・ビジネス・情報」「社会心理」の5つのコースを設けることによって、学生の一人一人の関心に合わせて、広範な社会学の領域を系統立てて学ぶことが可能になっている。これにより、激動する社会を多角的に考察し、明日への創造力を高めることによって、複雑に変化する現代社会のさまざまな現実的課題に立ち向かい、それらを分析し、解決に導くことのできる人材の育成を教育目的としている。

社会福祉学科では、「広い視野」「人への思いやり」「卓越した実践能力」をキーワードに掲げ、対人援助や集団・家族援助から、地域福祉や社会福祉、国際社会福祉に至る広い実践領域の社会福祉、ソーシャルワークについて包括的に研究する。「ミクロ領域」「メゾ・マクロ領域」という2つの研究領域を学ぶことにより、専門職として社会福祉の向上に貢献したり、市民として地域福祉を推進するリーダー役を担うなど、21世紀の社会生活をリードしていく人材の育成を教育目的としている。

上記の専門教育と並行して、本学部では総合教育にも力を注いでおり、①哲学・思想、②芸術・文化、③自然と人間、④現代社会、⑤国際社会の5つの系列を設けることによって、専門教育や生涯教育につながる幅広い領域について、実り豊かな人生のための土台となる知的・文化的素養や関心を身につけた学生の育成に努めている。

具体的な教育目標としては以下のものがあげられる。

1. 広い視野と専門的な知識体系と実践力を身につけた人材を、製造業などの一般企業を始め、新聞・放送・広告などの情報メディア産業、公務員、教員など、多彩な分野に送り出す。
2. 教室での対人援助の基礎訓練を施した後、臨床実習として経験をつんだ現場の指導者の指導を受けながら、実際にケースを担当し、ソーシャルワーカーとしての実践訓練に臨む。これらの学習を経て、国家資格である「社会福祉士」「精神保健福祉士」の資格を取得したり、福祉関連機関・施設、医療機関、NPO（非営利組織）などへの道をめざす学生を送り出す。
3. 様々な社会問題の解決を図るための実証的な社会調査の方法を身につけるためのカリキュラムを整備し、全国的な学会認定資格である「社会調査士」の資格を取得する学生を輩出する。

(現状の説明)

社会学部は1960年に創設され、2004年度までの卒業生は21,497名である。「真理は汝らに自由を得さすべし」という聖句を基本精神としながら、社会学と社会福祉学を核にして現代社会を科学的に探求することを通じ、今日の社会に具体的な貢献を成し得る人材を育成することをめざしてきた。

こうした学部教育の理念については、『大学要覧』に明記するとともに、新入生に対するガイダンスなど学部主催の各行事の場において、学部長挨拶などを通じて関係者に周知してきた。

日常的な学部での教育業務を通して、学部教育理念と方針についての学生の意見を受け取ることはもとより、教育懇談会の場などで学部教育に対する父母からの意見や要望を聞く機会を設けてきた。また、社会福祉学科では関西学院社会福祉セミナーを年に1回開催し、OB・OGならびに社会福祉の現場で活躍される卒業生との交流の場を設け、学部の教育理念・目標に対する社会からの要望を取り入れる有効な機会として活用している。

社会学・社会福祉学とは、人と人の関係、家族・学校・企業やさらには地域・国家といった集団と人の関係、そしてそれらの集団と集団間の関係の中から生じるさまざまな事象に学際的にアプローチし、より理想的な社会のあり方を模索していく学問である。とりわけグローバル化や高度情報化が進んだ現代社会の本質を探究するためには、既存の研究領域にとらわれない柔軟でバランスのとれた思考力、自主的な行動力、そして鋭い観察力や分析・検証能力が必要である。

社会学科では、「現代社会学」「地域・生活・環境」「メディア文化」「企業・ビジネス・情報」「社会心理」の5つのコースを設けることによって、学生の一人一人の関心に合わせて、広範な社会学の領域を系統立てて学ぶことが可能になっている。これにより、激動する社会を多角的に考察し、明日への創造力を高めることによって、複雑に変化する現代社会のさまざまな現実的課題に立ち向かい、それらを分析し、解決に導くことのできる人材の育成を教育目的としている。

2003年11月に発足した「社会調査士認定機構」によって、全国制度としての社会調査士資格の認定が開始された。社会調査士とは、行政機関や一般企業において科学的な知識と手法に基づき社会調査を企画・実施するために必要視される能力を備えた人材である。社会学部では、今後実社会においてその必要性が高まることが予想される社会調査士の養成に、学部教育を通して力を入れている。そうした教育の成果として、2003年度には27名、2004年度には25名の学生が社会調査士の資格を取得した。

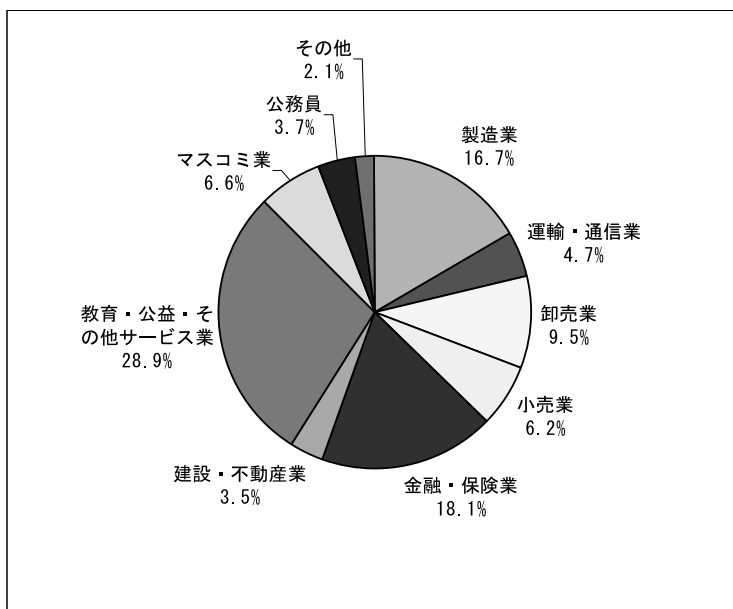
社会福祉学科では、「広い視野」「人への思いやり」「卓越した実践能力」をキーワードに掲げ、対人援助や集団・家族援助から、地域福祉や社会福祉、国際社会福祉に至る広い実践領域の社会福祉、ソーシャルワークについて包括的に研究する。「ミクロ領域」「メゾ・マクロ領域」という2つの研究領域を学ぶことにより、専門職として社会福祉の向上に貢献したり、市民として地域福祉を推進するリーダー役を担うなど、21世紀の社会生活をリードしていく人材の育成を教育目的としている。

2003年度、2004年度の「社会福祉士」と「精神保健福祉士」の試験合格者数の実績は、社会福祉士が2003年度68名、2004年度58名の合格者を、精神保健福祉士が2003年度に7

名、2004年度に6名の合格者を出している。これら二つの資格試験における社会学部社会福祉学科の学生の合格率は、「社会福祉士」が2003年度48%、2004年度46%、「精神保健福祉士」が2003年度88%、2004年度75%となっており、いずれも全国平均（社会福祉士：2003年度29%、2004年度30%、精神保健福祉士：2003年度62%、2004年度61%）を大きく上回っている。

上記の専門教育と並行して、社会学部では、時代や社会の変化を受けて従来の一般教育科目をより広範かつ総合的に発展させた総合教育にも力を注いでいる。具体的には、①哲学・思想、②芸術・文化、③自然と人間、④現代社会、⑤国際社会の5つの系列を設けることによって、専門教育や生涯教育につながる幅広い領域について、実り豊かな人生のための土台となる知的・文化的素養や関心を身につけた学生の育成に努めている。

<2004年度就職状況>



(点検・評価の結果)

2003年度、2004年度の卒業生の就職に際して、製造業・卸売業・金融保険業・小売業・マスコミ等の幅広い業種に卒業生たちを送り出している実績から判断して、「広い視野と専門的な知識体系と実践力をつけた人材」を送り出すという目標は、十分に実現されている。

社会福祉学科の卒業生のおよそ半数が、福祉施設・医療機関・福祉関連企業・行政機関など福祉・医療関係への就職を果たしており、こうした実績からも「専門職として社会福祉の向上に貢献する」という目標は、十分に実現されている。

「社会福祉士」「精神保健福祉士」「社会調査士」など専門知識・技能を身に付けた人材の養成という目標は、ここ数年にわたり全国平均を大きく上回る試験合格者・資格取得者を輩出していることから判断して、十分に実現されている。